

メールマガジン（教育・英国ウェールズ）

英国西部に位置するウェールズの教育制度は、5～16歳までの義務教育におけるウェールズ語の必修を除いて、イングランドとほぼ同様に整備されています。

ウェールズ語はヨーロッパ最古の言語の一つですが、1536年のイングランドによる併合以降のウェールズ語に対する差別や弾圧により、1801年にはウェールズ人口の約80%を占めていたウェールズ語話者の割合が1991年には18.5%まで減少しました。その後、1993年に公用語となり、1999年に設立されたウェールズ議会を中心としたウェールズ政府の積極的な言語政策により、最新の統計では3歳以上のウェールズ語話者の割合は24%となりました。ウェールズの公立校には、英語で教育する学校とウェールズ語で教育する学校（Welsh medium school）があり、ウェールズ語で教育する学校の割合は30%を超え、こちらも増加傾向にあります。ウェールズでは現在、公用語であるウェールズ語と英語を併用する独自政策が推進されており、公的な会議や公文書、道路標識などは全て2言語が併用されています。



2言語で併記されている市庁舎看板

ここで、ウェールズ北部のフrintシャー市におけるウェールズ語教育の取り組みをご紹介します。

フrintシャー市の教育部局には、第2言語としてウェールズ語を学ぶ子供達への2言語併用推進のため、「ウェールズ語アドバイザーチーム」が設置されています。チームは、5人のウェールズ語教員で構成され、歌やゲームなどによる楽しく、効果的な教材や教授法を開発・提案するとともに、管轄する市内の小中学校67校（うちウェールズ語で教育する学校5校）及び中学校12校（うちウェールズ語で教育する学校1校）の児童生徒及び教員への助言や指導を行っています。

その中で、チームは、低年齢における早期語学教育による第2言語習得が第3、第4言語のさらなる習得をしやすくしている傾向に着目し、3歳児からのウェールズ語教育のためのセット（クマ「Ticw」のぬいぐるみ大小とCD1枚、絵本9冊）を開発し、各地域にある子育て支援グループなどに配布しています。チームによると、子供達はウェールズ語の歌やクマの「Ticw」のお話をCDで聞いたり、絵本で読んだりするうちに、今度は、ぬいぐるみの「Ticw」にウェールズ語で語りかけたり、歌を歌ってあげたり、絵本を読み聞かせたりするようになり、「Ticw」のお世話をすることで自然に言葉を覚えていくそうです。ぬいぐるみ「Ticw」の活用は、



「Ticw」のぬいぐるみとCD、絵本のセット

子供達を優しい気持ちにさせるため、子供達にとってウェールズ語がいいイメージとなり、強制的な言語習得の際の嫌悪感を生じさせにくい効果があるそうです。このセットは、とても人気で、クリスマス時期には子供達へのクリスマスプレゼントとして購入を希望する親からの問合せが多いそうです。

こういった取組みの成果は統計上にも表れているようです。前述した3歳以上のウェールズ語話者24%の年齢別内訳をみると、最も高い割合の年齢層は3～15歳で41%、反対に、最も低いのは45～64歳で18%となっています。

フrintシャー市の担当者によると、ウェールズでは看護師や警察官などウェールズ語話者を求める職種も多く、就職の際に有利となることから、子供にウェールズ語を学ばせたがる親が増えているそうです。子供だけでなく大人にもそういった傾向が見られ、成人向けのウェールズ語講座も人気があるそうで、「実は、自分も今受講し、勉強しているところだ」とおっしゃっていました。

ロンドン事務所 田村所長補佐

参考資料

・ウェールズ語話者に関する統計：2015年11月ウェールズ政府発表、Welsh language use survey 2013-2015

<http://gov.wales/statistics-and-research/welsh-language-use-survey/?lang=en>

・学校に関する統計：2015年7月ウェールズ政府発表、School census results, 2015

<http://gov.wales/docs/statistics/2015/150723-school-census-results-2015-en.pdf>